

溝上慎一の教育論(動画チャンネル) No351

[学術的解説]

次期学習指導要領改訂に向けた「質の高い探究的な学び」

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問
東京大学大学院教育学研究科 客員教授

<https://smizok.com/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

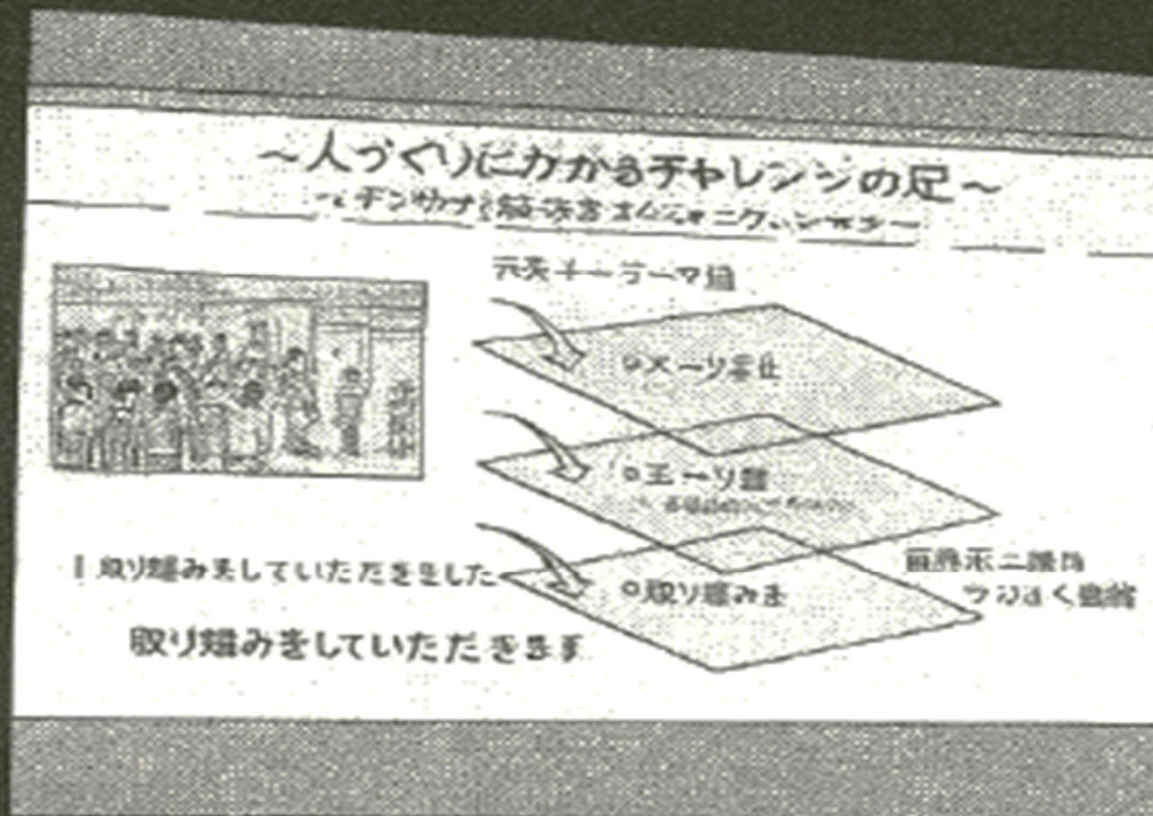
【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。
*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の研究委託を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

横浜市教育課程研究委員会総則部会 研究協議会（全体会）2025年8月19日



[全体会テーマ]質の高い
探究的な学びに向けて

(パネルディスカッション)

・溝上慎一報告

「[学術的解説] 質の高い
探究的な学びに向けて」

「質の高い探究的な学び」がどういうものを説明する前に、そもそもなぜ探究的な学びが求められたのかを確認する必要がある

(答)

- 予測困難な（先が読めない）
- 変化の激しい（次々と新たな課題が発生）
- 問題解決型の現代社会を力強く生きていくため

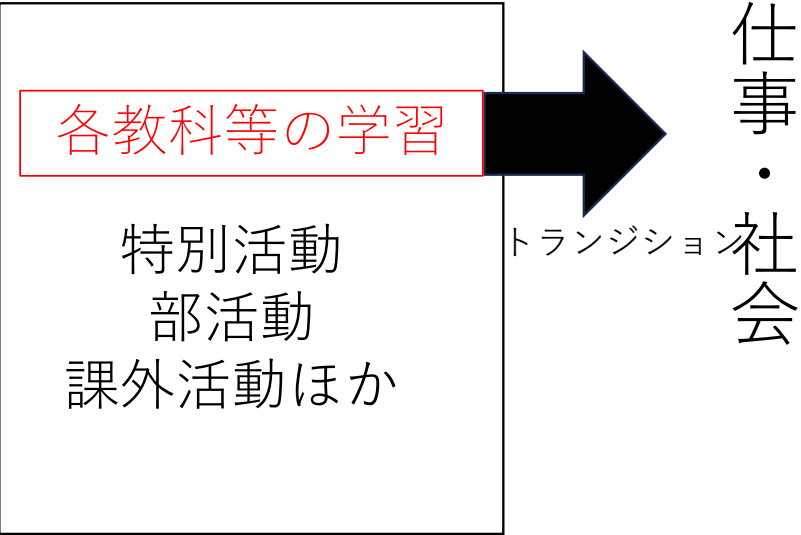
決して未来の社会の話ではない

- 新型コロナウイルスの感染拡大
 - 生成AIの登場
 - 地球温暖化による異常気象、続発する大災害
 - ロシアのウクライナ侵攻、第三次世界大戦？
 - 物価高
 - 米不足、米の高騰
 - トランプ関税
 - 人口減少、過疎化する地方、止まらない少子化
 - 日本社会の縮小
- などなど

仕事・社会へのトランジションに果たす学校教育の役割が抜本的に変わってしまっている

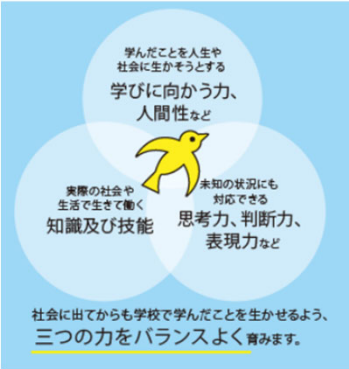
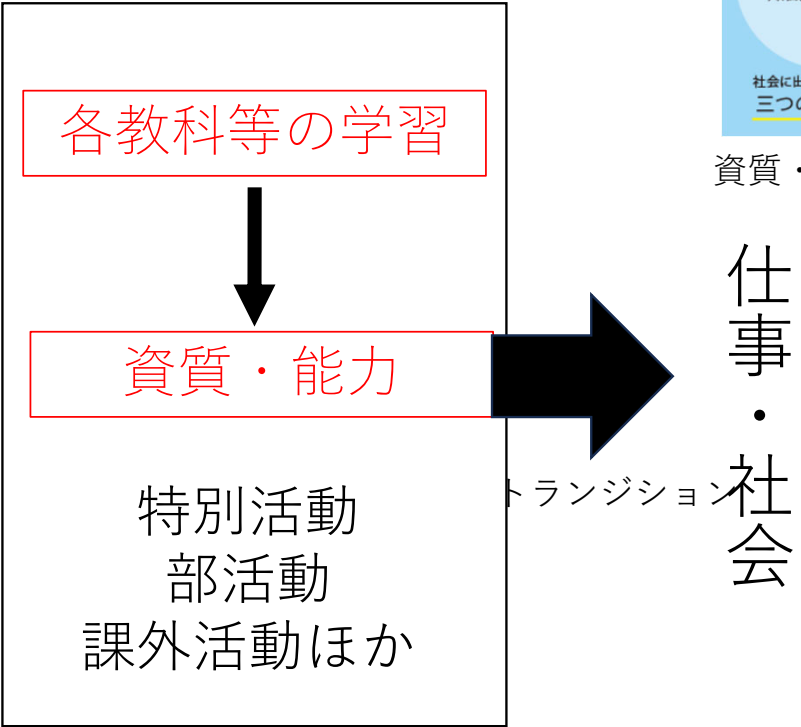
これまでの

[近代型学校教育]



現行の学習指導要領で転換した

[現代型学校教育]



資質・能力の三つの柱

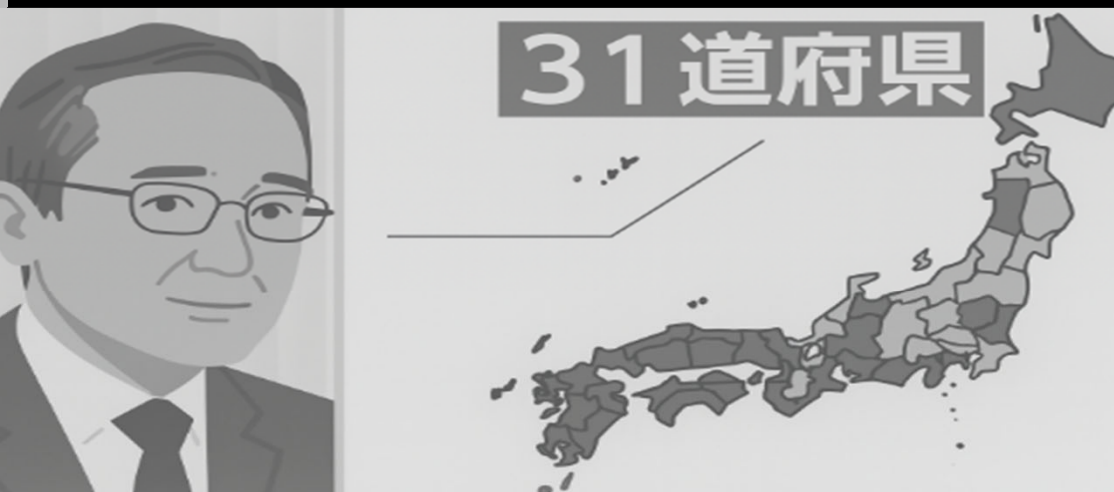
仕事・社会の課題から入ると多くの課題は学際的であり非学問的である



マダニ感染症（SFTS）のニュース



皮膚科クリニックの医者



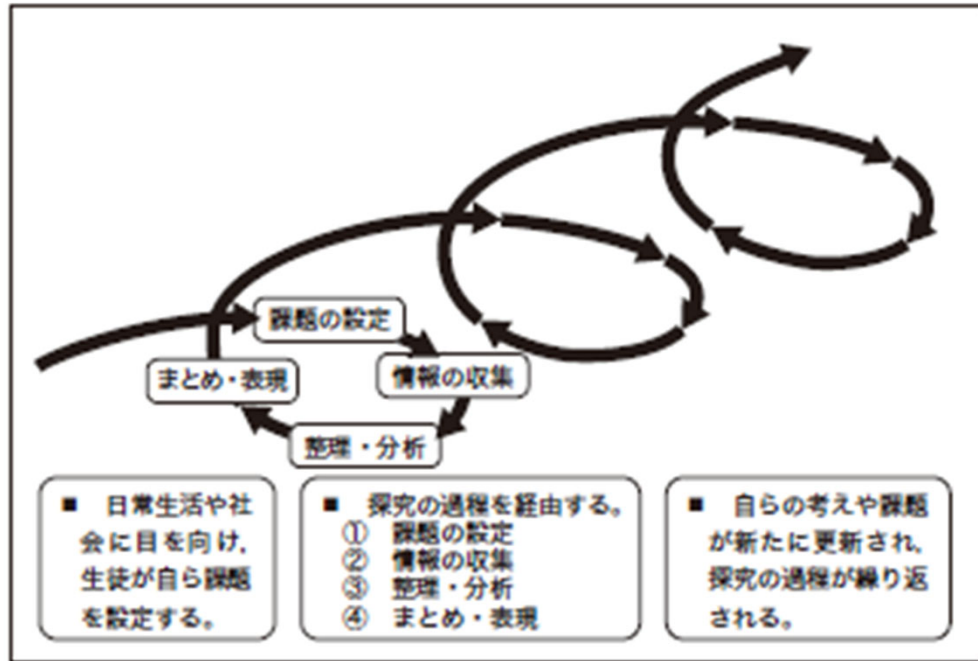
医学部教授（感染症専門）



日本防疫殺虫剤協会の会員／暮らし／ペット

探究的な学びの登場

学習指導要領『平成10-11年改訂』（1998-1999年）



・探究のプロセス

探究力

- 課題の設定
- 情報の収集
- 整理・分析
- まとめ・表現

+ 総合（教科等横断）

- ・言葉通り、各教科等をまたがった学習
 - ・各教科等にとらわれることなく実社会・実生活と関連付ける
- という2つの意味がある

+ 自己の生き方（小中学校） 自己の在り方生き方（高校）

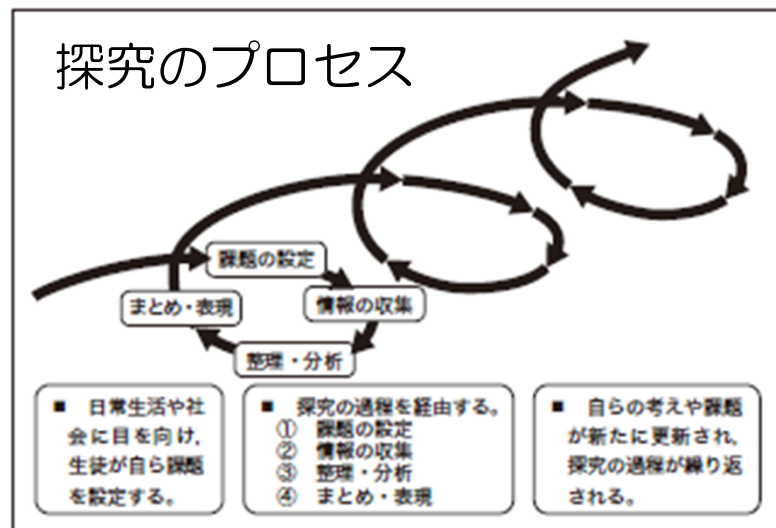
- ・自らの課題を発見する
- ・ライフ（生活・人生）
- ・自己、価値観、アイデンティティ

近代の各教科等の学習を中心とする学校教育の限界を露呈し、各教科等で扱いにくいものを探究に外出しする構図が確立

探究的な学びの到達点

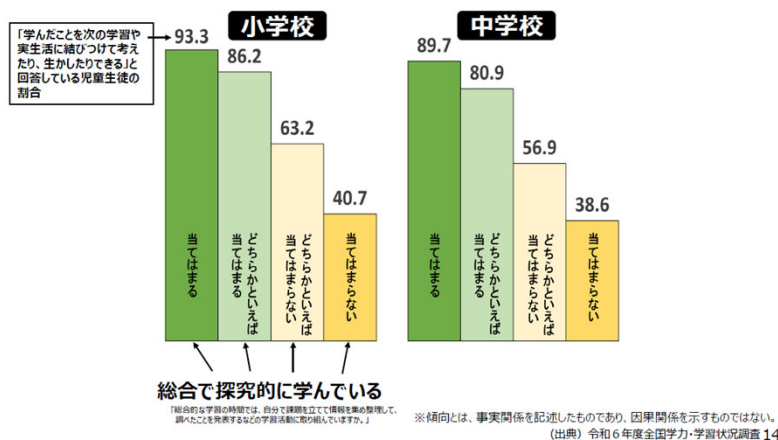
・探究の手法（探究のプロセス）はほぼ確立している

・全国学力・学習状況調査より総合的な学習（探究）の成果は安定的に示される



R6全国学調

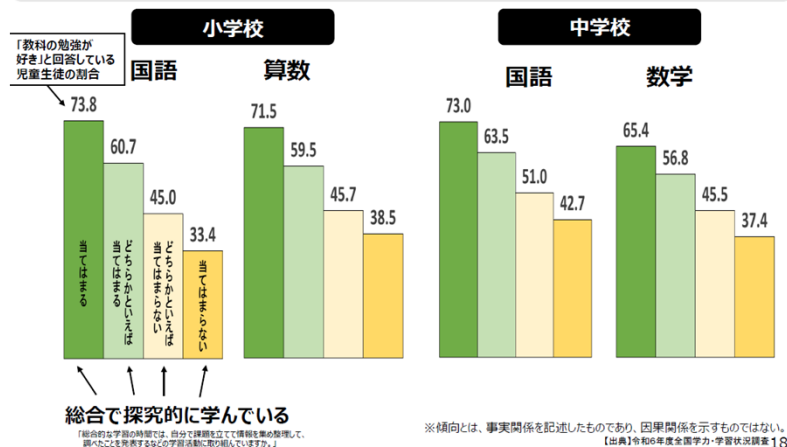
「探究的な学び」に取り組む児童生徒は、授業で学んだことを「次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりできる」割合が高い傾向



資質・能力の育成

R6全国学調

「探究的な学び」に取り組む児童生徒は「教科の勉強が好き」な割合が高い傾向



各教科等の学力

引き続き探究的な学びの質を高める努力が求められることを除いて

次期学習指導要領改訂に向けた課題（3点）

文科省にとっての最大の関心事と思われる

- ①デジタル学習基盤（とくに情報活用能力）を用いた探究的な学びの質向上
＝「質の高い探究的な学びの実現」

なぜ文科省はここに関心をもつのか？

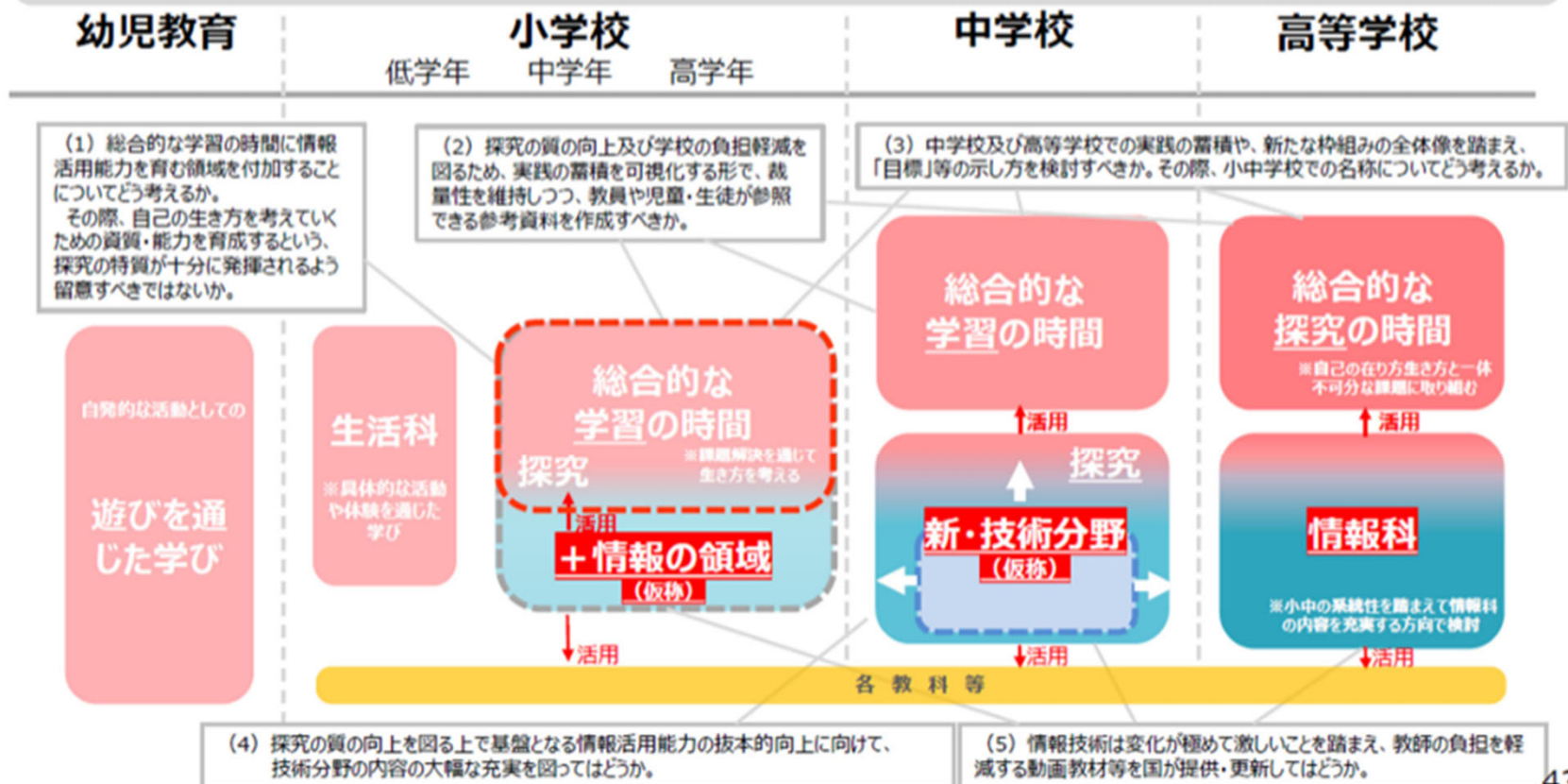
- GIGAスクール構想第2ステージ（2025年～）
- 各教科等の深い学びにデジタル学習基盤を関連付けたい
- デジタル教科書の導入の準備
- 生成AIの登場、急速な普及を前に、デジタル学習基盤の確立が急務



- 探究的な学びと教科としての「情報」をカップリングして突破したい

質の高い探究的な学びの実現に向けた新たな枠組み（②全体イメージ）

- 主体的に学び、自らの人生を舵取りする力の育成や、多様で豊かな可能性を開花させる教育の実現を図るためには、一人ひとりが初発の思考や行動を起こしたり、好奇心を深掘りする中で、学びを主体的に調整し、自身の豊かな人生やより良い社会につなげていく「質の高い探究的な学び」の実現が不可欠
- この実現に向け、情報活用能力を各教科等のみならず、探究的な学びを支え、駆動させる基盤と位置づけ、探究・情報の双方の観点から大幅な改善を図る ⁽¹⁾ ⁽⁴⁾とともに、教育の質向上と教師の負担軽減を両立させる方策 ⁽²⁾ ⁽³⁾ ⁽⁵⁾を検討してはどうか



会見・報道・お知らせ

政策・審議会

白書・統計・出版物

申請・手続き

トップ > 政策・審議会 > 審議会情報 > 中央教育審議会 > 初等中等教育分科会 > 教育課程部会 > 教育課程部会(第134回) 配付資料

● 教育課程部会(第134回) 配付資料

1. 日時

令和7年7月9日(水曜日)13時00分～15時00分

2. 場所

WEB会議と対面による会議を組み合わせた方式

3. 配付資料

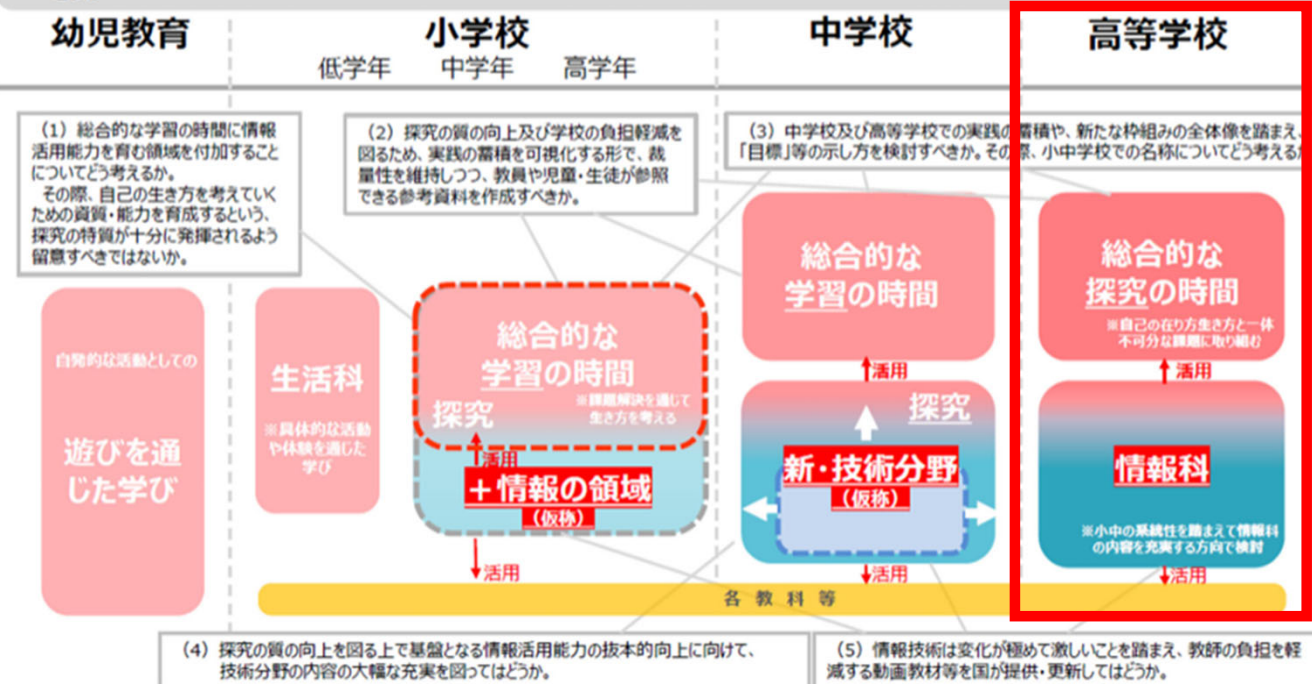
- 議事次第(PDF:114KB)
- 【資料1】教育課程企画特別部会における審議の状況について(PDF:3.6MB)
- 【資料2-1】教員養成部会における審議の状況について(PDF:1.8MB)
- 【資料2-2】諮問を踏まえ議論が必要と考えられる事項と基本的な考え方(案)(社会の変化や学習指導要領の改訂等について)
- 【資料2-3】諮問を踏まえ議論が必要と考えられる事項と基本的な考え方(案)(教師の質を維持・向上させるためについて)
- 【資料3】各学校段階や各教科等の改訂の方向性を議論する専門部会等の設置について(案)(PDF:452KB)
- 【参考資料1】給特法等改正法について(PDF:953KB)
- 【参考資料2】第13期中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会委員名簿(PDF:104KB)
- 【参考資料3】初等中等教育分科会教育課程部会運営規則(PDF:105KB)
- 【参考資料4】教育課程企画特別部会の設置について(PDF:68KB)



②「課題の設定」「自己の在り方生き方」の質をもっと高める

質の高い探究的な学びの実現に向けた新たな枠組み（②全体イメージ）

- 主体的に学び、自らの人生を能取りする力の育成や、多様で豊かな可能性を開花させる教育の実現を図るためには、一人ひとりが初発の思考や行動を起こしたり、好奇心を深掘りする中で、学びを主体的に調整し、自身の豊かな人生やより良い社会につなげていく「質の高い探究的な学び」の実現が不可欠
- この実現に向け、情報活用能力を各教科等のみならず、探究的な学びを支え、駆動させる基盤と位置づけ、探究・情報の双方の観点から大幅な改善を図る。(1)(4)とともに、教育の質向上と教師の負担軽減を両立させる方策。(2)(3)(5)を検討してはどうか



第8回企画特別部会
論点資料
(2025年5月22日)

- ・ データ・サイエンス
(データになる課題が優先、そして大学レベルの統計の利用、数学を教える学校もあり)
- ・ STEAM
(安易にもの作りに走る傾向あり)

← ポイント①
(情報→探究)

← ポイント②
(情報→各教科等)

③一人ひとりの学びを充実させるための探究的な学びの実現

＜2つの流れから進行＞

(A) 個別最適な学びの授業開発 『令和の日本型学校教育（答申）』（2021年）

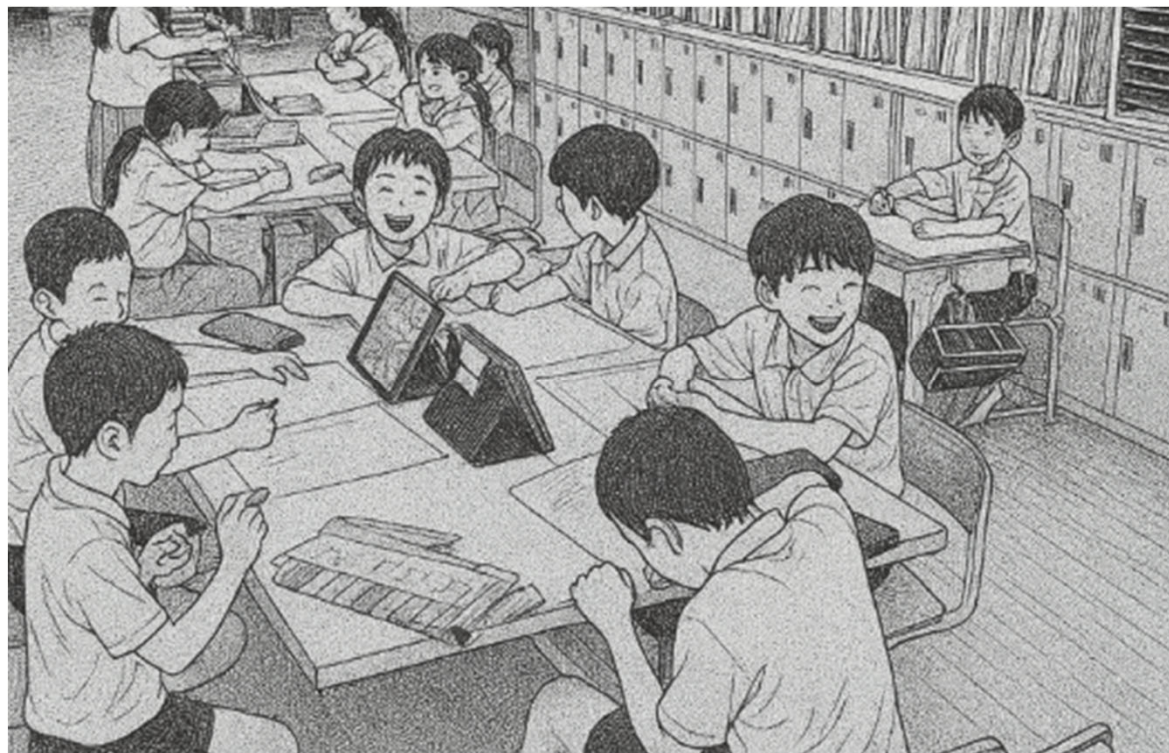
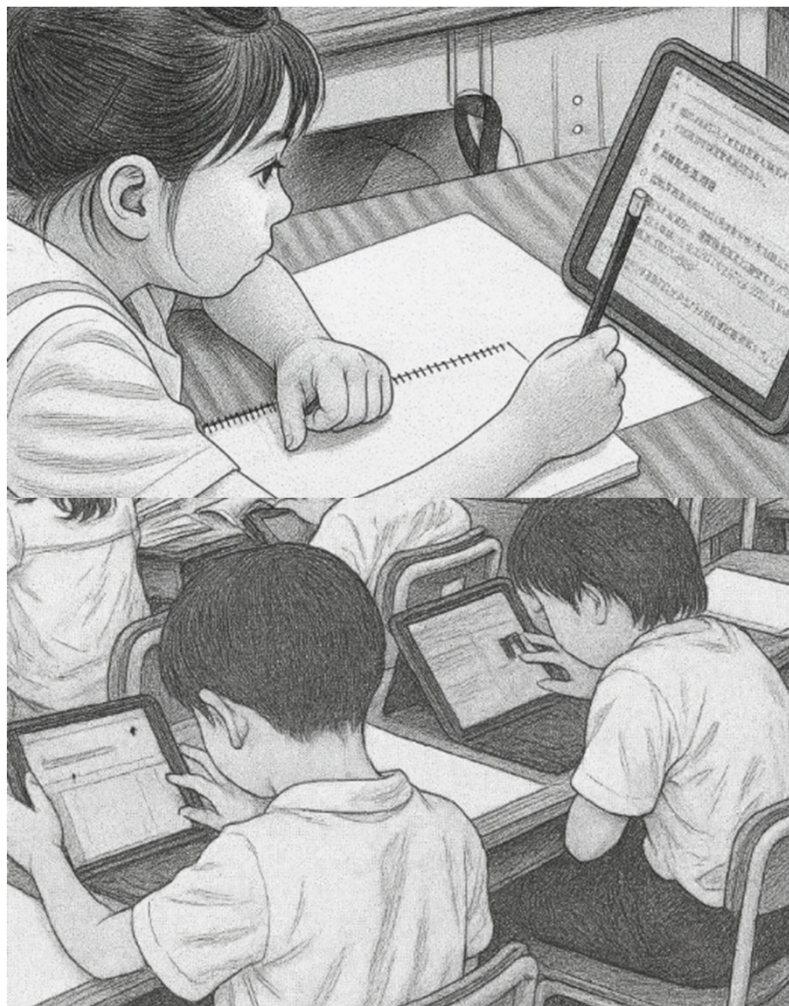
- ・ 単元内自由進度学習
- ・ 「自立した学習者」の育成（横浜市）

→このタイプの授業は、小さな課題や問題を子どもが設定し、情報を集め、整理・分析・まとめ・表現というステップを採ることが多く、「探究的な学び」そのものだという学術的理解が出ている
(高橋純, 2022)

各教科等の授業が「探究的な学び」となっていく

高橋純 (2022). 学び続ける力と問題解決ーシンキング・レンズ、シンキング・サイクル、そして探究へー 東洋館出版社

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の授業開発 (令和の日本型学校教育答申、2021年1月)



単元内自由進度学習

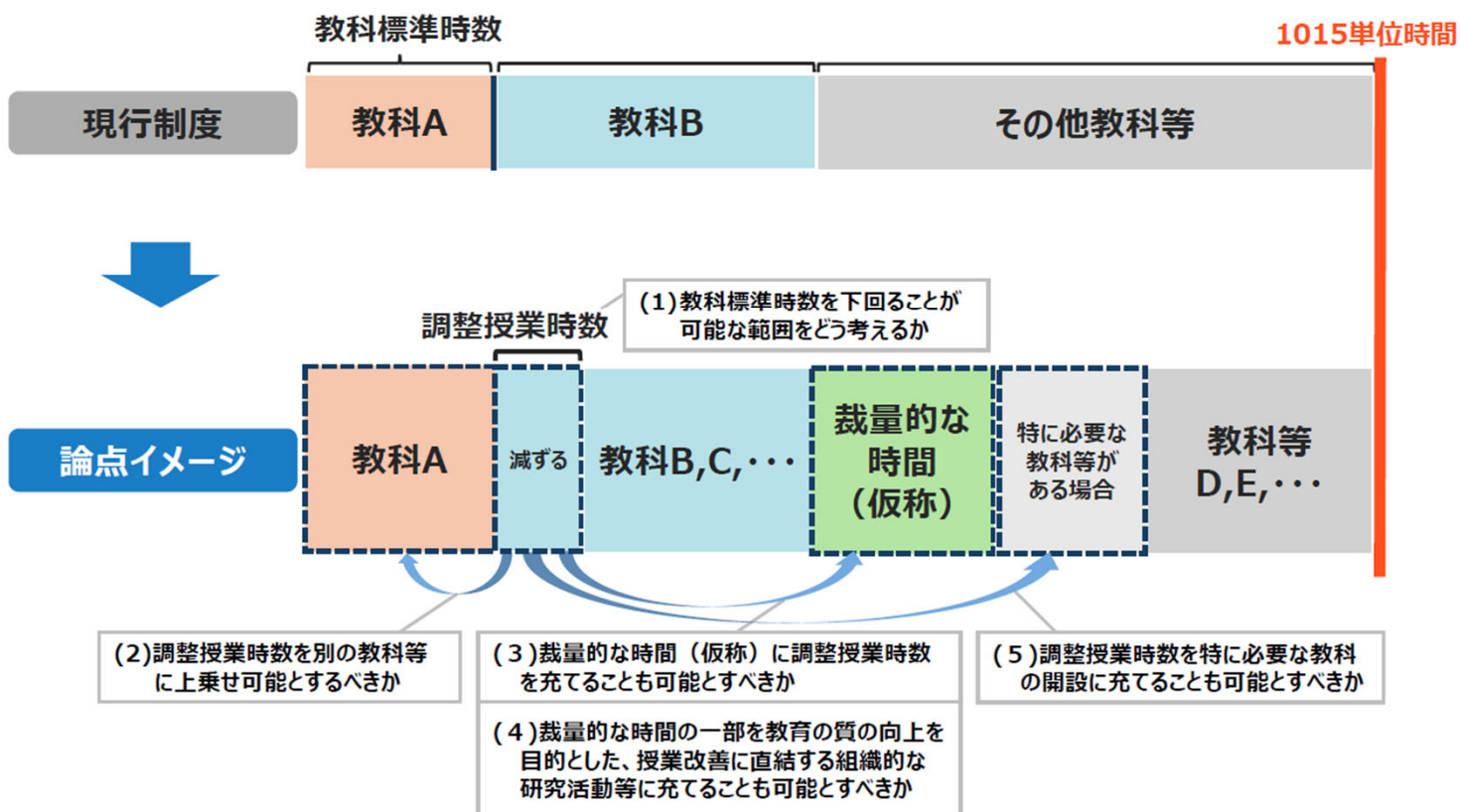
鳥取大学附属小学校

(B) 柔軟な教育課程の推進

企画特別部会論点資料
第4回（2025年3月28日）
第5回（2025年4月10日）

柔軟な教育課程の論点イメージ

多様な個性や特性、背景を有する子供たちを包摂する柔軟な教育課程編成を促進するため、児童生徒や地域の実態を踏まえて、必要に応じて以下のような取組の一部又は全部の実施を可能とするか否か。





令和7年6月16日
教育課程企画特別部会
資料 1 - 2

「質の高い学び」と「持続可能な学校」の 同時実現に向けて

横浜市立獅子ヶ谷小学校

2025年6月



横浜市立獅子ヶ谷小学校 日課表(4～6年生)

40分午前5 時間制を導入しつつ日課の見直しを行い、
6 校時の日でも15時前に児童が帰宅。
⇒教育の質の向上に向けた研究等の時間を確保

- 【教育課程の編成の考え方】※R 6 計画
- ①総授業日数 **206日(6年：202日)**
※夏季休業期間：7月22日～8月26日
※年間授業可能時数：1068コマ分(45分換算)
 - ②年間の総授業時数(コマ数)の考え方
1148コマ/40分(1020コマ分/45分換算)
 - ④週当たりの総授業時数：27.5コマ(45分換算)
 - ⑤児童会・クラブ活動、学校行事の合計：48コマ(45分換算)
※うち学校行事は24コマ(45分換算)



各教科等(1020) + 学校行事等(48)
※年間授業可能時数の範囲内

登校時間 8:05～8:15					
	月	火	水	木	金
8:20	朝の会	朝の会	朝の会	朝の会	朝の会
8:30	1	40分	40分	40分	40分
9:10	5分				
9:15	2	40分	40分	40分	40分
9:55	中 休 み (10分)				
10:05	5分				
10:10	3	40分	40分	40分	40分
10:50	5分				
10:55	4	40分	40分	40分	40分
11:35	5分				
11:40	5	40分	40分	40分	40分
12:20	給 食 (45分)				
13:05	昼休み(15分) 13:05～13:20	そう じ(10分) 13:05～13:15	昼休み(15分) 13:05～13:20	そう じ(10分) 13:05～13:15	昼休み(15分) 13:05～13:20
	5分	昼休み(内) (25分) 13:15～13:40	5分	昼休み(外) (25分) 13:15～13:40	5分
	そう じ(20分) 13:25～13:45	5分	そう じ(20分) 13:25～13:45	5分	そう じ(20分) 13:25～13:45
13:45	6	40分	40分	40分	20分 帰りの会 14:05～14:15
14:25	20分	20分	帰りの会 14:25～14:35	委員会 14:15～14:55 クラブ 14:15～15:15	20分
14:45	帰りの会	帰りの会			帰りの会
14:55					
15:00					
16:00					
16:30					

横浜市立獅子ヶ谷小学校

「質の高い学び」と「持続可能な学校」の同時実現に向けて
令和4年度～令和6年度の取組

【質の高い学び】

・40分授業と20分モジュールを活用した探究的な学び

①探究的な学びへの活用

合計60分(40分+20分)授業による学習活動の充実
午前5校時40分授業による集中力の向上

②基礎学力の定着・AIドリルの活用

20分モジュールを用いた基礎学力の定着

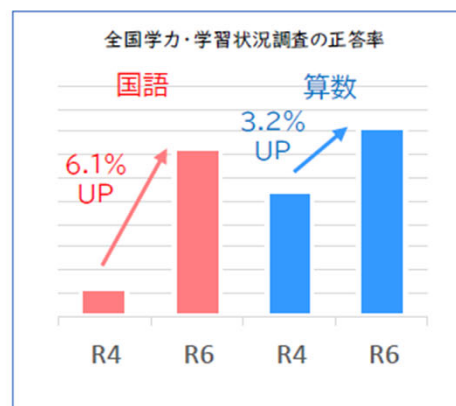


地域に出かけて行う探究活動の充実 端末を活用した個に応じた基礎学習の充実

・子どもの探究的な学びを支える授業準備

個々が作成した教材・ワークシートをPC・ロイロノートの
共有フォルダに保存

⇒ 授業実践の有効活用 授業準備の効率化
(児童の学力向上) (教職員の労働時間削減)



ICTを活用して思考を可視化

ご清聴有り難うございました

プロフィール

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、2000年講師、2003年京都大学准教授、2014年教授を経て、2019年学校法人桐蔭学園理事長。桐蔭横浜大学学長（2020-2021）。京都大学博士（教育学）

河合塾教育研究開発本部研究顧問、東京大学大学院教育学研究科客員教授、電通育英会大学生調査アドバイザー、文部科学省初等中等教育分科会教育課程部会臨時委員、日本学術会議連携会員、大学・高校の各種委員。日本青年心理学会学会賞受賞（2013年）、日本教育情報学会論文賞受賞（2023年）

専門は、青年・発達心理学・教育実践研究（自己・アイデンティティ形成、学びと成長、アクティブラーニング、学校から仕事・社会へのトランジション、人生100年時代のキャリア形成など）。著書に『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』（2014東信堂、単著）、『学習とパーソナリティ「あの子はおとなしいけど成績はいいんですよ！」をどう見るかー』（2018東信堂、単著）、『社会に生きる個性ー自己と他者・拡張的パーソナリティ・エージェンシーー』（2020東信堂、単著）、『高校生の学びと成長に向けた「大学選び」ー偏差値もうまく利用するー』（2021東信堂、単著）、『インサイドアウト思考ー創造的思考から個性的な学習・ライフの構築へー』（2023東信堂、単著）、『高校・大学・社会 学びと成長のリアルー「学校と社会をつなぐ調査」10年の軌跡ー』（2023学事出版、編著）、『幸福と訳すな！ウェルビーイング論ー自身のライフ構築を目指してー』（2023東信堂、単著）など多数。

<https://smizok.com/>

